

# 財政計画

～将来にわたり行政の使命を果たすために～

第5次茨木市総合計画 6章

---



企画財政部 財政課

ねえレッド、財政計画ってどういうもの？



やあグリーン。

財政計画は、少子高齢化の進展などによる厳しい財政状況にあっても、行政の使命である市民サービスの充実を図るため、健全な財政運営に向けた取組の方向性を示したものだよ。

この財政計画に基づいた健全化の取組を実践することで、総合計画の基本構想の実現と基本計画の施策を推進するんだ。

今日は財政計画について一緒に学ぼう！！

# 1 茨木市の財政の現状

～決して多くはない財源の中、  
健全化への取組により、  
良い状況をキープ～



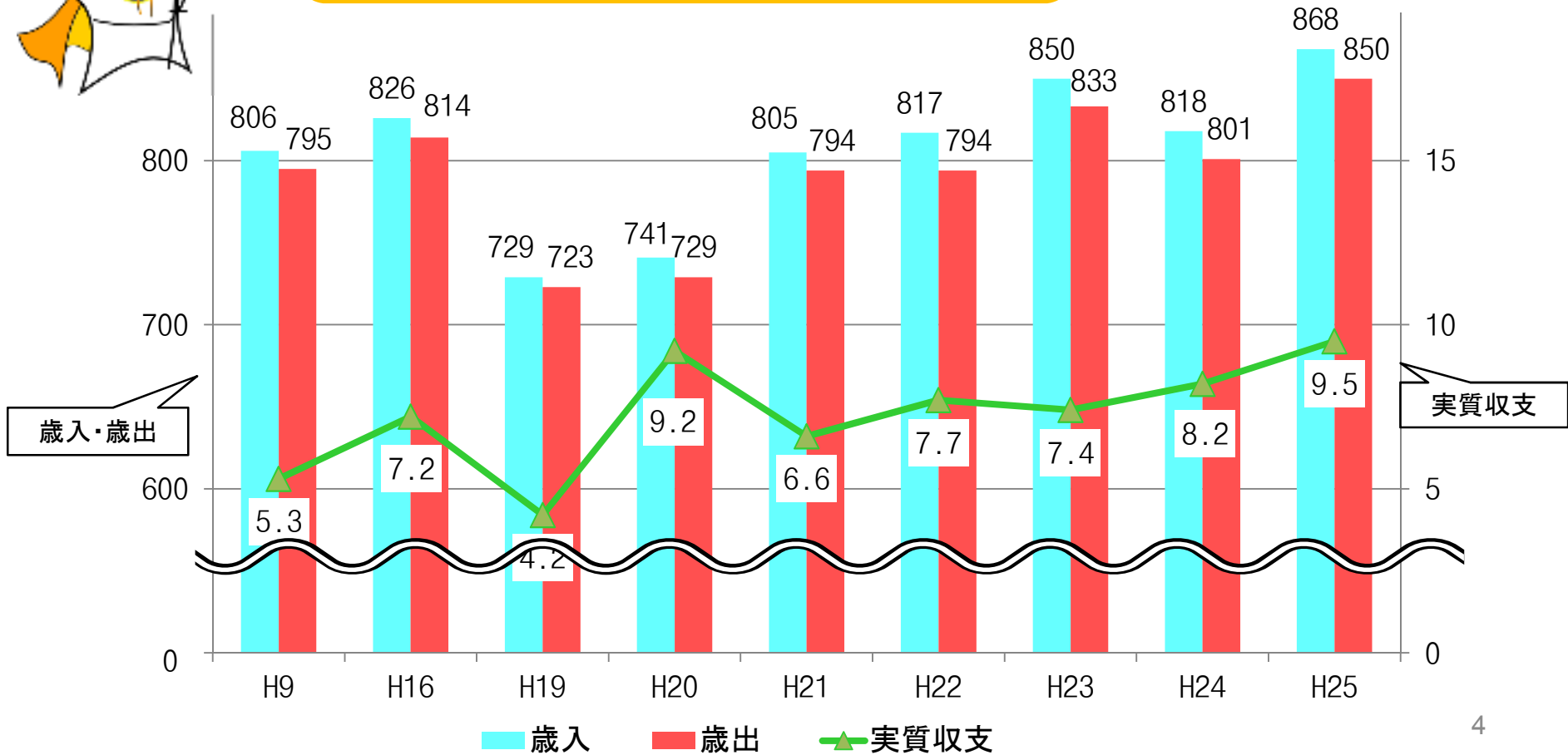
# [財政規模の推移]

まずは市の財政状況を見てみよう！



近年は、おおむね800億円台で、いずれの年度も黒字決算を維持しているのだ！

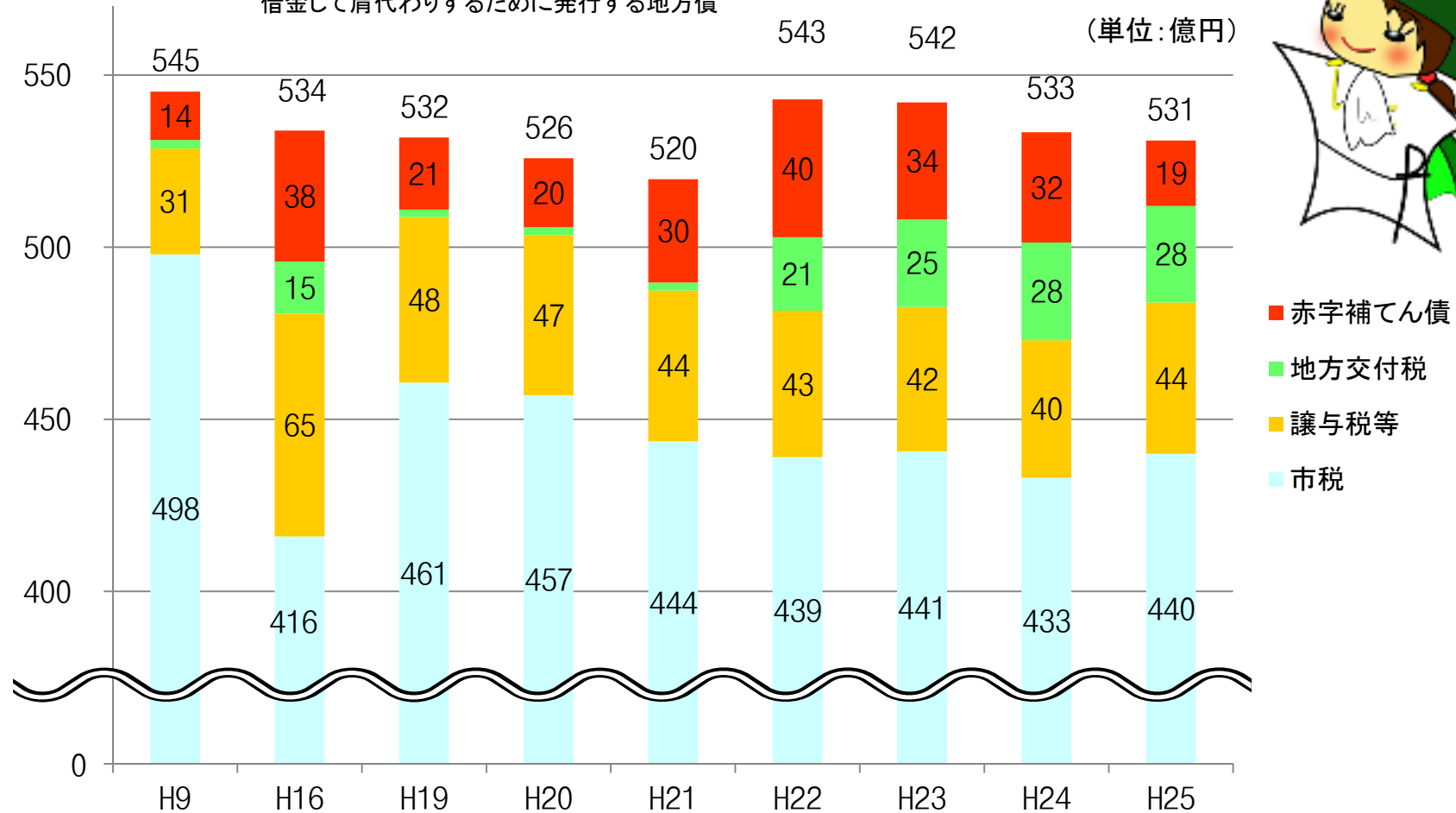
(単位:億円)



# [歳入：税等一般財源<sup>(※1)</sup> (臨時財政対策債<sup>(※2)</sup>含む)の推移]

H9年度から市税収入が減収となっているけど、赤字補てん債の発行により、なんとか税等一般財源は530～540億円を確保しているんだね。

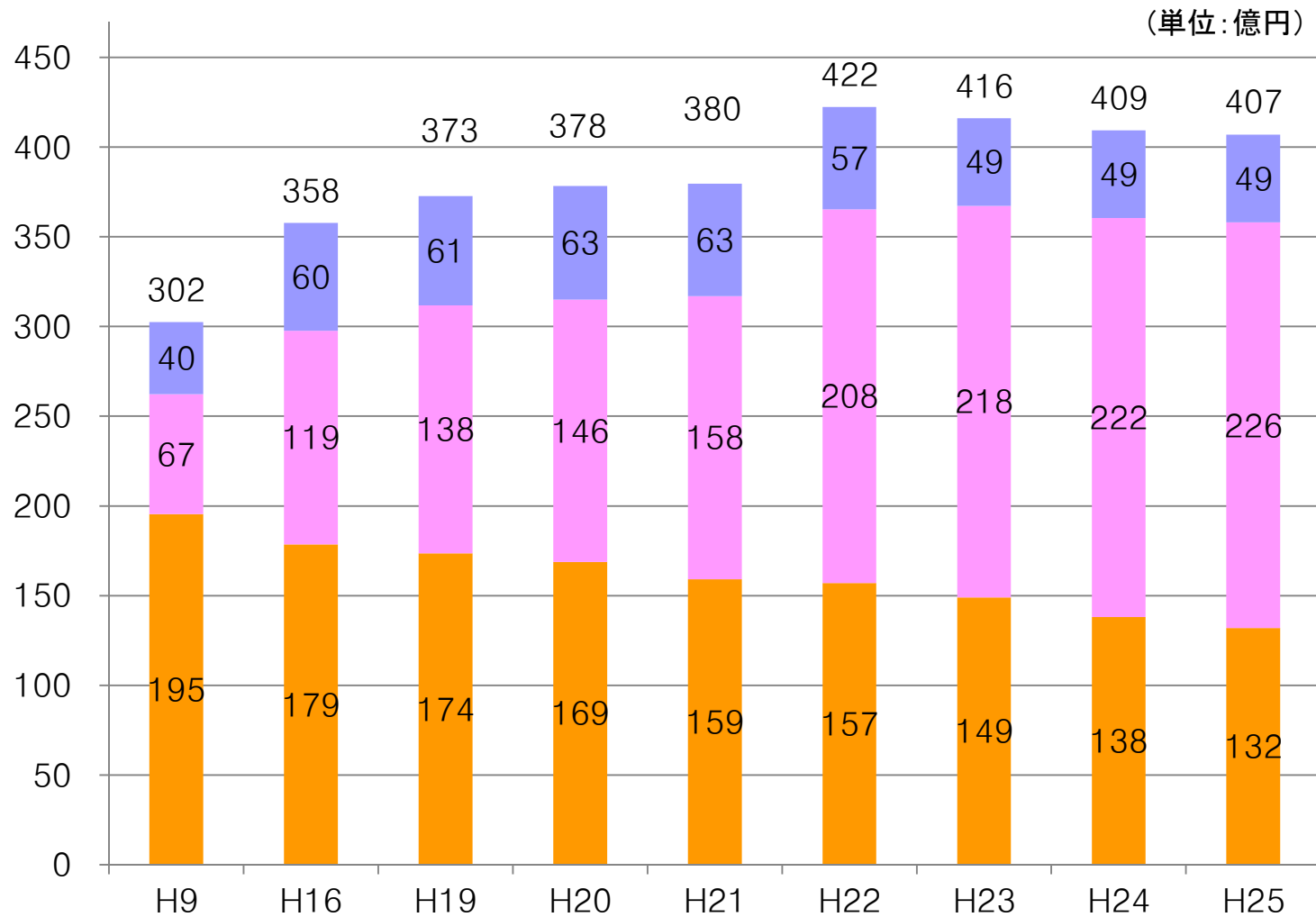
(※1)税等一般財源……市税、地方譲与税、地方交付税など用途が特定されていない財源  
 (※2)臨時財政対策債……赤字補てん債の一つで、本来国から地方に交付される普通交付税の一部を、地方が一旦借金して肩代わりするために発行する地方債



# [歳出：義務的経費 (人件費・扶助費(※1)・公債費(※2))の推移]

(※1)扶助費…高齢者、子ども、障害者などに対する福祉サービス経費  
(※2)公債費…市の借金(市債)を返済(償還)する経費

H9年度と比べると約100億円も増えてるねん。  
人件費・公債費を抑制してきてんけど、扶助費が3倍になっていることが大きな要因やねん。



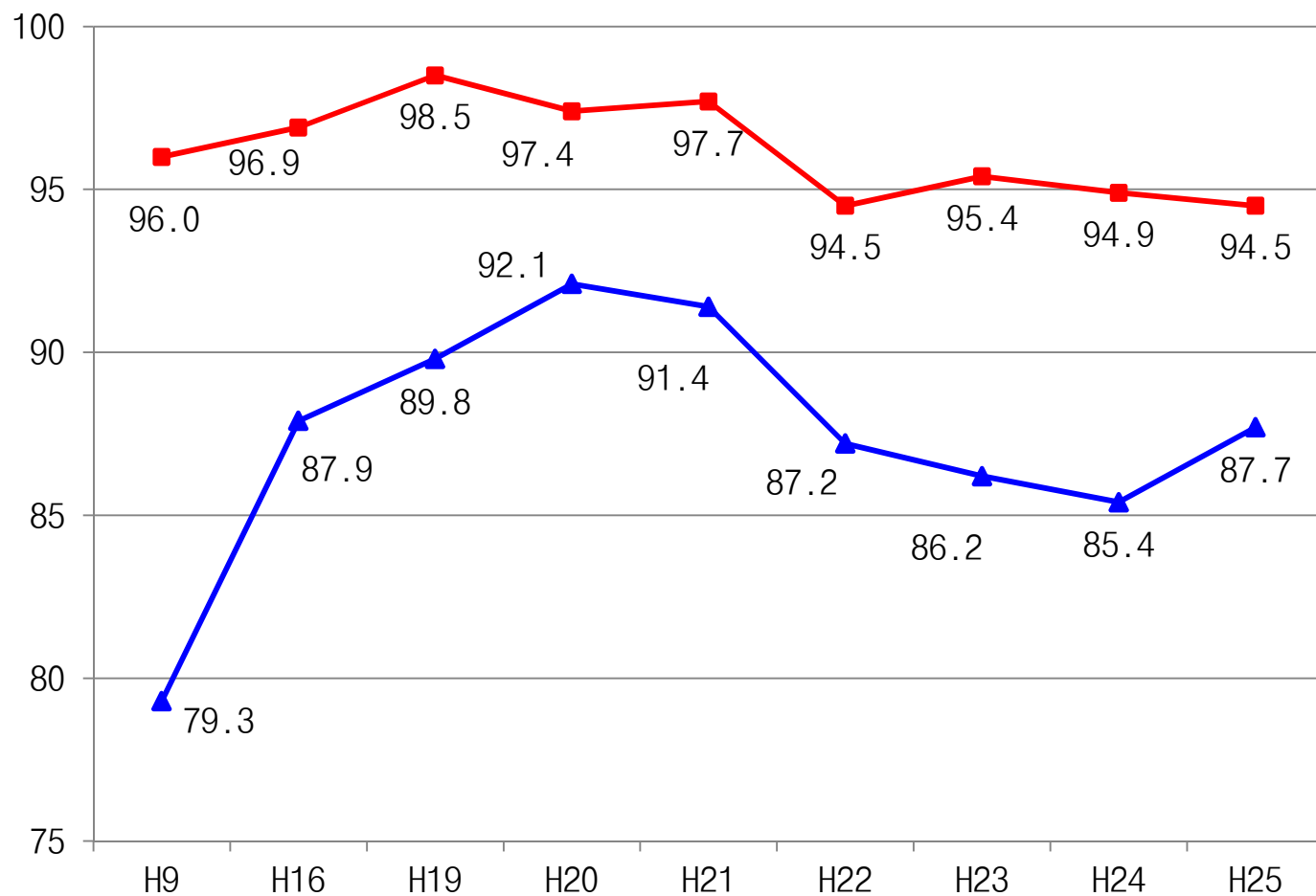
- 公債費
- 扶助費
- 人件費

# [経常収支比率の推移]

《経常収支比率》

市税や地方交付税など毎年収入される一般財源が、人件費・扶助費・公債費など、毎年必要となる経費に、どの程度充当されているかを求めたもの。

数値が低いほど財政の弾力性があるとされている数値だね。茨木市は府内では比較的良好な状況を維持しているんだ！

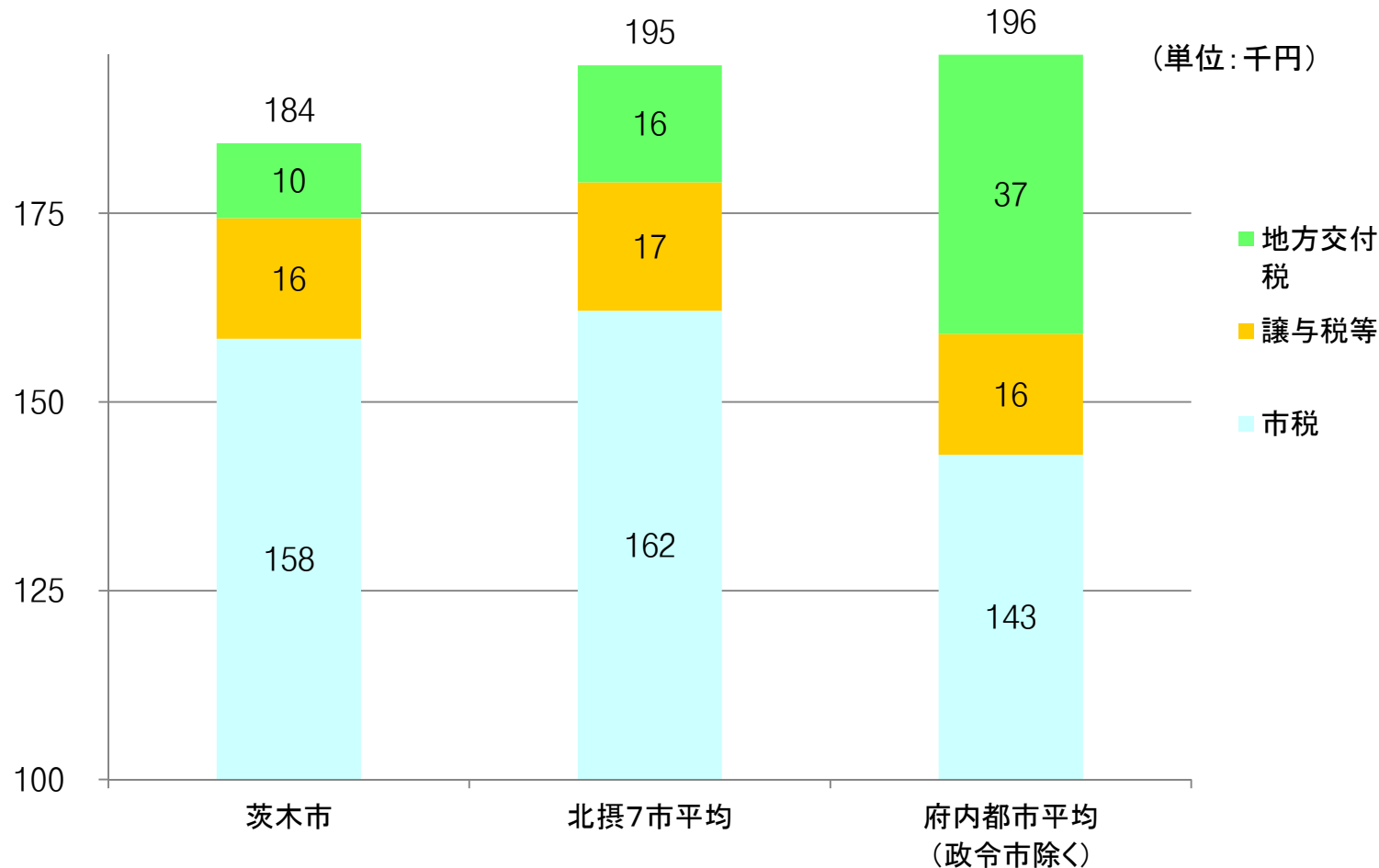


▲ 茨木市  
■ 府内都市平均

# [税等一般財源比較]

(市民1人あたり)※H25決算ベース]

家計で給料にあたる税等一般財源は、他市に比べて少ないんだね。府内では決して「お金持ち」ではない中、現状の財政状況にあるのは、いろいろやりくりしているってことだね。



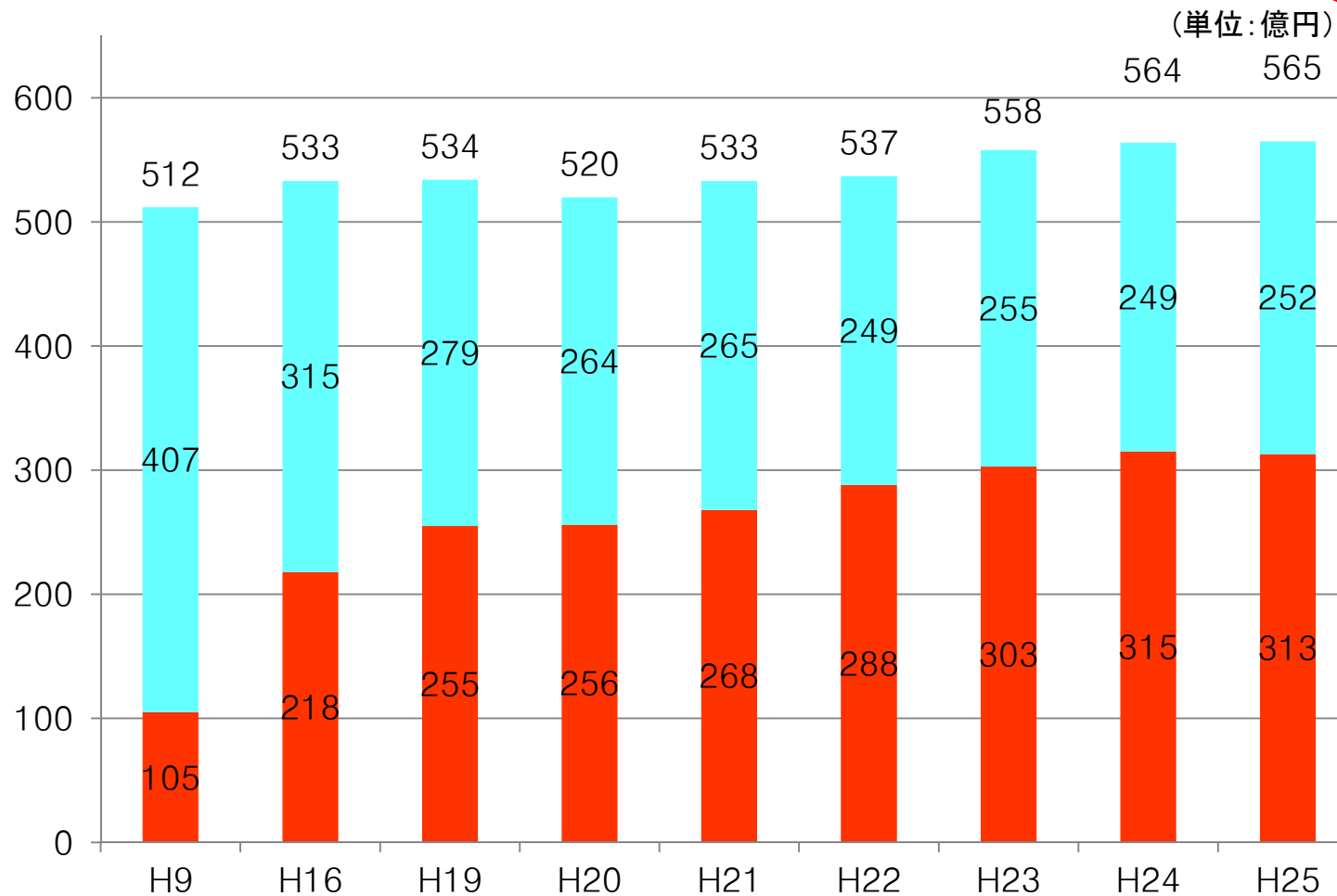


# [市債(借金)残高の推移]

《建設債》  
道路整備や小中学校の整備など、建設事業の財源とするために発行する地方債

《赤字補てん債》  
財政上の収支不足を補填するために発行する地方債

赤字補てん債の累積から市債残高は増え続けているね。今後は中長期的な財政運営に努めることで健全財政を維持していく必要があるね。



■ 建設債  
■ 赤字補てん債

市の財政の現状をまとめたよ。



## 歳入

市税収入は、H9と比べ約60億円減少  
交付税と赤字補てん債で補てん ↗

## 歳出

扶助費は、H9と比べ約160億円増加  
人件費・公債費の減でカバー ↗

約3倍に!!

経常収支比率は府内都市の平均よりも良い状況ですが、税等一般財源が決して多いわけではなく、これまで様々な見直しに努めてきた結果です。将来を見通すと、少子高齢化の進展に加え、増え続ける市債残高や、**多額の財源が必要な主要プロジェクトが続くこと**などから、今後の財政状況は決して安心できない状況にあります。

## 2 今後の財政見通し

～「今」と「将来」に対応した  
施策の推進と財政見通し～



# [推計方法等(現行制度による人口推計を基本とした見通し)]

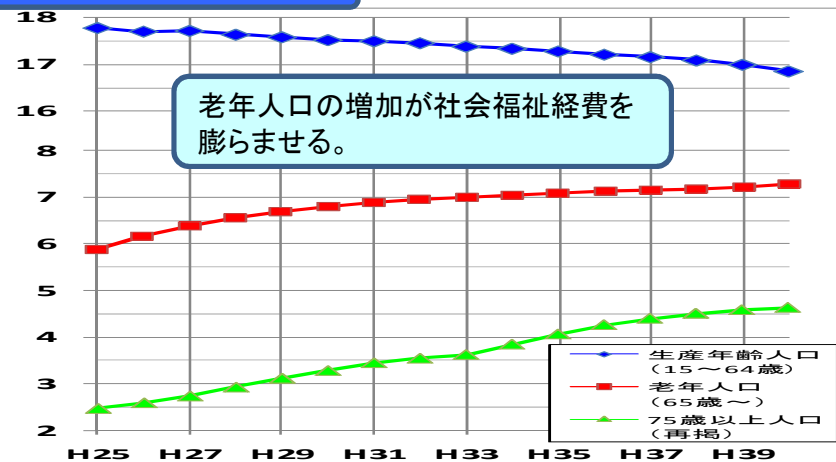
## [主な歳入の項目]

- 市 税
  - 個人市民税  
生産年齢人口や景気動向を加味して推計。
  - 法人市民税  
景気動向や地方法人税の創設に伴う影響を加味して推計。
  - 固定資産税及び都市計画税  
過去の実績や評価替え(平成27年度、以降3年おき)を加味して推計。  
家屋数の増や景気回復に伴う設備投資の増を見込む。評価替えの年は過去の実績をもとに減収を見込む。
- 譲与税、交付金  
地方消費税交付金は消費税率の改定に伴う増収を見込む。  
自動車重量譲与税等の地方譲与税や配当割交付金等の交付金については、平成27年度予算額ベースで推計。
- 地方交付税  
一定の税等一般財源の総額が確保されると想定して推計。
- 市債  
臨時財政対策債については、消費税率の段階的な改定に伴い、地方消費税交付金が増収となることから、平成29年度以降は発行しないものとする。
- その他  
主なものは国庫・府支出金であり、これまでの財源構成をもとに、歳出と連動させ推計。  
諸収入等のその他は、平成27年度予算額ベースを基本に推計。

## [主な歳出の項目]

- 人件費  
職員数、給料月額、過去の実績等をもとに推計。  
現状の職員数の維持を基本に人件費を見込む。
- 社会福祉経費  
人口推計等を加味して推計。  
年少人口の減少に伴い、児童手当等は減少することを見込み、高齢者人口の増加に伴い、介護保険事業特別会計への繰出金、後期高齢者療養給付費負担金等が増加すると見込む。  
※社会福祉経費=扶助費+特別会計への繰出金(国民健康保険+介護保険+後期高齢者医療)+後期高齢者療養給付費負担金
- 公債費  
過去に発行した市債の償還を基本に、平成27年度以降に発行する市債の償還を見込む。  
(3年据置、20年償還、借入利率2.0%を基本に推計)
- その他  
主なものは物件費・補助費等であり、平成27年度予算額ベースを基本に推計。  
※物件費:物品の購入や印刷、施設維持の委託などの経費  
補助費等:特定の目的により団体や個人に補助・負担する経費

茨木市の人口推計



財政計画は、現行制度による人口推計等をふまえて、一定の考えのもと歳入・歳出それぞれ見込んでいるんだ。



# [経常収支]



経常収支とは、市税や譲与税等の歳入から、人件費や公債費をはじめ、住民票の発行や生活保護費の支給、公共施設の維持管理など、毎年度継続して実施する事業(経常事業)にかかる歳出を差し引いたものなんだ!

(単位:億円)

中長期財政見通し		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
A 経常事業	①歳入	784	792	794	796	800	802	801	801	805	803
	(1)市税	438	443	449	445	451	457	453	459	465	461
	(2)譲与税・交付金	56	71	71	71	71	71	71	71	71	71
	(3)地方交付税	26	28	30	35	32	27	30	24	22	24
	(4)市債(臨時財政対策債)	22	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	②歳出	744	754	757	762	765	763	761	760	761	754
	(1)人件費	140	139	138	140	140	139	140	140	142	140
	(2)社会福祉経費	320	326	331	334	337	340	342	343	346	349
	(3)公債費	47	49	49	49	49	48	47	46	43	36
	A 収支 ①-②	40	38	37	34	35	39	40	41	44	49

30~40億円の黒字で推移する見込みだね



少子高齢化の進展により、市税の伸び以上に社会福祉経費が伸びる見込みなんだ。でも、地方消費税交付金が増えることなどから、この先10年間は黒字で推移する見込みだよ。

# [政策事業]



政策事業とは、「今」必要なサービスの充実や「将来」の活力あるまちの発展のために行う新規事業や拡充事業のことなんだ。  
 厳しい財政環境にあっても、行政の使命として継続して取り組む必要があるんだよ。

(単位:億円)

中長期財政見通し		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
B 政策事業	③ハード事業	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	一般財源	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	④ソフト事業	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	⑤基金積立	6	6	6	6	6	6	6	6	4	4
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	6	4	4
	⑥主要プロジェクト事業	58	31	46	11	6	6	4	1	16	30
	一般財源	11	6	9	4	2	3	2	1	3	6
	事業費 ③+④+⑤+⑥	92	65	80	45	40	40	38	35	48	62
	市債	40	24	30	17	16	16	15	13	20	29
B 一般財源	27	22	25	20	18	19	18	17	17	20	

H27~29年度  
に集中！！

多額の市債を活用！！

主要プロジェクトは平成27~29年度に集中するから、多額の市債を活用する必要があるんだね。

主要プロジェクト…  
 (仮称)JR総持寺駅周辺整備、茨木松ヶ本線整備、安威川ダム関連整備、新名神高速道路関連、彩都関連事業、ごみ処理施設更新



# [公共施設等の老朽化対策費]

(単位:億円)

C 公共施設等の 老朽化対策	⑦事業費	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	市債	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	C 一般財源	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11



昭和40年代から50年代に建設された公共施設は老朽化が進み、道路・橋梁等のインフラを含めたその改修等の経費が今後一時期に集中し大きな財政負担となることが予想されるんだ。  
 今後は一定の財源を確保し長寿命化を進めることで、財政負担の平準化を図っていくんだ。

# [政策事業の経常化]

(単位:億円)

D 政策事業により経常化する経費	中長期財政見通し	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
	D <sub>1</sub> ソフト事業の新規・拡充経費	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18
	D <sub>2</sub> 公債費	1	2	3	6	9	11	13	15	17	19

ソフト事業の実施により経常化する経費や主要プロジェクト等ハード事業の実施によって、発行する市債の償還費が増えていってるねんな。



# [最終収支]

(単位: 億円)

E	中長期財政見通し	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
	総収支 $A - B - C - D_1 - D_2$	1	1	▲6	▲9	▲11	▲12	▲14	▲16	▲17	▲19

うん。このまま何も手立てを講じなければ、経常収支(A)から政策事業にかかる一般財源(B)、公共施設の老朽化対策費(C)、政策事業により経常化する経費(D)を差し引いた最終収支(E)は、平成29年度から収支不足に陥り、赤字が累積していく見込みなんだ。



翌年度以降に累積する政策事業として実施するソフト事業の経費とハード事業の公債費が、財政の硬直化を引き起こして、収支不足の要因になってんねんな。

こうならないために、将来を見据えた取組みが必要になるな。





# 3 将来を 見据えた取組

～将来にわたる財政の健全性の  
確保に向けて！！～



# 財政運営の基本原則

健全な財政運営をするための基本原則だね。

- 将来を見据えた取組みとして、2つの基本原則のもと健全な財政運営を実践します



## ① 柔軟な財政構造の保持

経常化する経費の累積による財政構造の硬直化を防ぐため、**新たに実施する新規・拡充事業(ビルド)の財源は、既存の事業や制度の見直し(スクラップ)により創出する**取組である、「ビルド&スクラップ」の実践により、柔軟な財政構造を保持する。

## ② 将来(世代)への負担の抑制

市債を発行しすぎると残高が増加し、後年度の公債費負担を増加させる要因となることから、**将来へ負担を先送りし過ぎることのないよう、適切な市債発行に努める。**

**それぞれ目標を設定し、収支の改善と財政の健全化を図る！**

## ◆ 具体的な取組①

### ビルド&スクラップの実践による経常事業の見直し

目標: 柔軟な財政構造を保持するため、経費硬直率を概ね85%以内に抑制する

#### 経費硬直率

$$\frac{\text{※1 (経常事業の歳出に充当される一般財源)}}{\text{※2 税等一般財源}} \times 100$$

※1 税等一般財源－経常収支[経常事業の歳入－経常事業の歳出(公債費除く)]  
※2 市税＋譲与税・交付金＋市債(臨時財政対策債)

公債費以外の経常的な支出が税等一般財源に対してどのくらいの割合となっているかを表すもので、**数値が高いほど財政構造が硬直化し、余裕がない状況であることを表す。**

家計に例えると、住宅や車のローンの返済費を除いた生活費が給料の中でどのくらいの割合となっているかを示してるんだ！

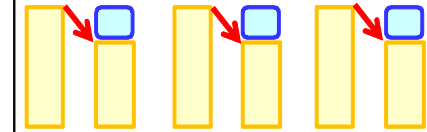




ビルド&スクラップの実践により、毎年2億円の見直しを行い、経費硬直率を85%以内にするのが目標なんだ！

経常経費の見直しを、継続的に実施！！

『継続的事业』のあるべき姿  
《ビルド&スクラップ》

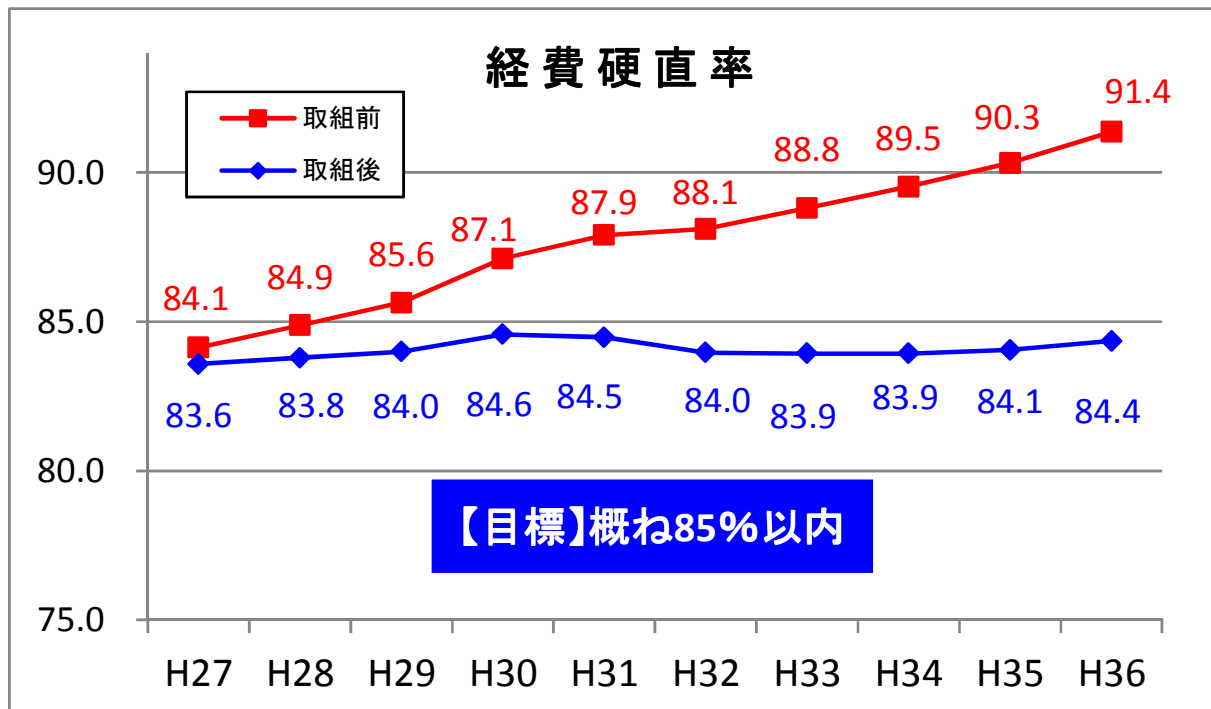


■ 新規・拡充「継続的事业」  
■ 既存「継続的事业」

(単位:億円)

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
▲ 2	▲ 4	▲ 6	▲ 8	▲ 10	▲ 12	▲ 14	▲ 16	▲ 18	▲ 20

※平成27年度から、毎年2億円の見直しを行う。



取組により改善！

## ◆ 具体的な取組②

### ハード事業の適切な選択による市債発行の抑制

目標: 将来(世代)への負担を抑制するため、市債償還指数を概ね7.5以内、かつ公債費が税等一般財源の10%台を超えない概ね60億円以下に抑制する

#### 市債償還指数

$(\text{市債残高} / \text{経常収支}) \times 100$

※経常収支＝経常事業の歳入－経常事業の歳出(公債費除く)

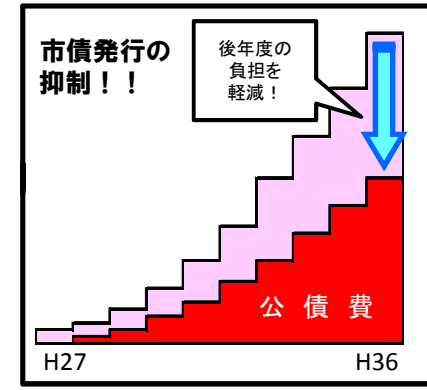
今ある市債の残高を、税等一般財源を基本とした経常的な収入から、行政サービスの基本となる福祉・教育等(公債費を除く)の経常的な支出を差し引いた額で除したもので、**数値が大きくなるほど市債残高が多く、後年度の負担となる公債費が多い**状況であることを表す。

家計に例えると、給料のうち生活費以外のお金をすべて借金に充てた場合、どの程度で返済できるかを示してるねんな。





ハード事業を適切に選択することによって、  
将来世代への負担を減らすんだね。



**F<sub>2</sub> ハード事業の選択**  
(H27~H29:3億円、H30以降:2億円)

(単位:億円)

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
▲ 3	▲ 3	▲ 3	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2

※ハード事業の適切な選択を行い、平成27年度から平成29年度は毎年10億円、平成30年度以降は毎年8億円の事業費を抑制し、それぞれ毎年3億円及び2億円の市負担を抑制する。

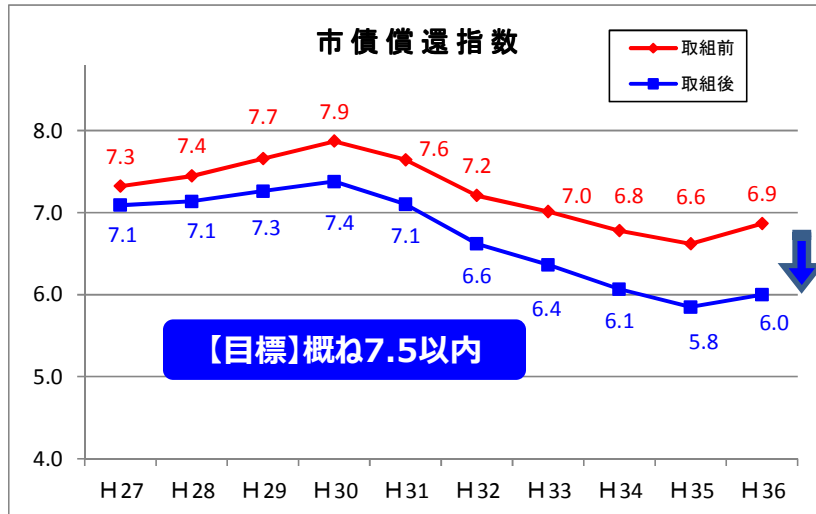
**F<sub>3</sub> 起債の抑制**  
(H27~H29:6億円、H30以降:5億円)

(単位:億円)

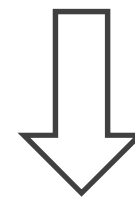
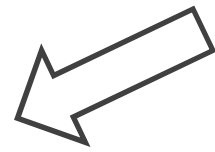
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
				▲ 1	▲ 1	▲ 1	▲ 2	▲ 2	▲ 3

※平成27年度から平成29年度は毎年6億円、平成30年度以降は毎年5億円の起債を抑制することにより、将来の公債費負担を軽減する。

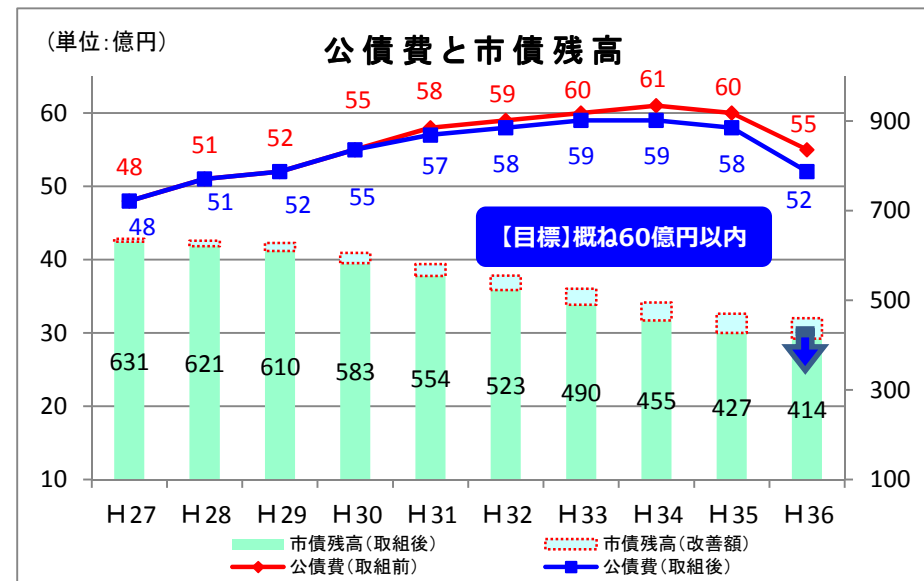
ハード事業の適切な選択により、市債発行を抑えることで、市債償還指数を7.5以内に、公債費も概ね60億円以内に  
にする目標を達成するで！



取組により  
改善！！



頑張るぞ！！



(単位: 億円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
E 最終収支 (A-B-C-D <sub>1</sub> -D <sub>2</sub> )	1	1	▲ 6	▲ 9	▲ 11	▲ 12	▲ 14	▲ 16	▲ 17	▲ 19



## 具体的取組

### F<sub>1</sub> 経常事業の見直し (毎年2億円の累積額)

政策事業の経常化分は、既存の経常事業の見直しで対応

▲ 2	▲ 4	▲ 6	▲ 8	▲ 10	▲ 12	▲ 14	▲ 16	▲ 18	▲ 20
-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------

### F<sub>2</sub> ハード事業の選択 (H27~H29:3億円、H30以降:2億円)

ハード事業を抑制

▲ 3	▲ 3	▲ 3	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

### F<sub>3</sub> 起債の抑制 (H27~H29:6億円、H30以降:5億円)

将来の公債費負担を軽減

					▲ 1	▲ 1	▲ 1	▲ 2	▲ 2	▲ 3
--	--	--	--	--	-----	-----	-----	-----	-----	-----

収支不足が改善！！

取組後収支 (E-F <sub>1</sub> -F <sub>2</sub> -F <sub>3</sub> )	6	8	3	1	2	3	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

健全な財政運営の実践により、収支不足を解消し黒字を確保しなきゃね。







# ま と め

～財政計画を基本とした行財政運営により行政の使命を果たす！～





ねえレッド、  
茨木市って赤字になったりするの？



大事な事だね、グリーン。  
これまで健全な財政運営を行ってきた茨木市だけ  
ど、一定の条件を想定すれば、そうなる危険性は  
あるんだよ。

だから、健康と同じで健全なうちから「健全性」を維  
持する地道な取組みを続けることが重要なんだ。

総合計画は...市民の願いの詰まったプラン！！

でも、すべてを実現することは簡単ではなく、たくさんの「事業の実施(ビルド)」には、「たくさんの見直し(スクラップ)」が必要なんだ。

行政の使命は、「将来にわたる市民サービスの向上」なんだけど、「財政の健全性」なしにその使命を果たすことは不可能なんだ！！



総合計画 ほっといばらき、もっと ずっと





行政の使命を果たすため、将来にわたり「今」と「将来」に対応した市民サービスの充実を可能とする取組が、「ビルド&スクラップ等の実践」なんだよね！？

行政の使命

「今」必要な  
サービスの実施

「将来」の  
まちの発展

「財政の健全性」の確保

ビルド & スクラップ

そのとおりだね！



メリハリある

## ビルド & スクラップ

新たなサービスを行うために

既存のサービスを見直す！！

ハード事業の適切な選択！！

市民に  
しっかりと  
説明できる  
取組み!!!



将来にわたり市民サービスの充実を可能とする取組は、「ビルド&スクラップの実践」だから...  
ビルド事業がもたらす効果と事業を見直す意義などをしっかりと捉えたうえで、一つひとつ適切に進めていかないとね。

ねえレッド、  
総合計画の実現のためには...必ず  
財政計画の取組みを進めなきゃね。



そうだね...  
様々な厳しい状況が予測されるけど、財政計  
画を基本とした行財政運営に努めることで、  
将来にわたって行政の使命を果たしていくん  
だよ！

いばらきの今と未来をまもるため

